



<プログラムの利用>

①Q. 海外の複数の国で行われる、種類の異なる研修にそれぞれ参加することは可能か？

A. 可能です。ただし、1つの研修テーマを達成するためにそれらの研修参加が必要であることが前提であり、採択された場合に参加が可能となります。

②Q. 同一の組織から、複数名が同じ研修等に参加することは可能か？

A. 可能ですが、より幅広く、様々な組織に本プログラムを活用していただくために同一の組織からは最大2名までの参加とさせていただきます。また、仮に2名が同時に応募した場合であっても、1名ずつ個別に選考しますので、必ずしも2名が揃って採択されるとは限らないことはご了承下さい。

③Q. 国際会議に参加したいのですが、このプログラムを利用することは可能か？

A. 可能です。その一方、本プログラムの目的は、国際協力 NGO の人材育成をととした組織強化、並びに日本の NGO への成果還元です。会議参加によりこれらの目的を満たすと採択された場合に限りです。

④Q. 実務型と研修受講型の2つを組み合わせることは可能か？

A. 可能です。研修参加目的が一貫していると判断され、採択された場合、2つの型を組み合わせられた参加が可能です。

⑤Q. 採択通知をもらった後に、参加するプログラムを変更することは可能か？

A. 原則採択されたプログラムの変更はできませんが、新型コロナウイルスの感染拡大等やむを得ない事情に起因する研修や会議の中止、延期などについては、採択後であっても代替の研修先や会議先または参加方法について変更申請は可能です。ただし、主催元である外務省からの変更承認が下りてから、参加が可能となるため、必ずしも変更が認められるとは限らないことをご了承下さい。なお、採択された研修・会議テーマは、研修員の必要性に応じて申請し、審査・採択されたもののため、変更することはできません。採択された研修・会議テーマに沿って代替の機会を探ることとなります。

⑥Q. 採択をされた後、すぐに研修や会議に参加しなければならないのか？

A. 採択された年度内中に参加頂ければ問題ありません。しかし、事務局より年度報告書を3月末までに主催元である外務省に提出する必要があることから、研修や会議への参加完了は2月下旬までに完了するようお願いしています。

⑦Q.本プログラムに申請可能な者は、日本国籍保有者もしくは日本在住者に限られるのか？

A. 日本国籍保有者並びに日本在住者には限りません。ただし、審査の公平性の観点、国費を利用するプログラムのため、以下の応募条件は必須となります。

・「2.募集概要」の<対象者>を満たすかどうか

・「4.選考」の<選考基準>をクリアするかどうか

・原則、日本語による審査対応や書類対応も可能な方

・事務局及び主催元からのリクエストに応じ、日本語への通訳・翻訳が常に可能な体制であること

・自団体の能力強化だけでなく、日本の国際協力 NGO 全体への研修成果還元ができると判断される方

所属する団体が、以上の条件を満たすと**正式に判断し**、推薦した場合は、応募は可能となります。書類選考及び審査においても、他応募者同様、以上の条件を基準として実施致します。

<応募条件>

①Q. 中堅職員でなければ、このプログラムに参加はできないのか？

A. 中堅職員までのキャリアが無い場合でも応募は妨げません。本プログラムの目的である、国際協力 NGO の人材育成をとおした組織強化、並びに日本の NGO への還元が十分に期待されると判断される場合には、採択されることがあります。

②Q. 5年程度の活動実績のある NGO に所属していないと、このプログラムに応募はできないのか？

A. 必ずしも5年程度の活動実績がない場合も応募を妨げるものではありません。本プログラムの目的である、国際協力 NGO の人材育成をとおした組織強化、並びに日本の NGO への還元が十分に期待されると判断される場合には、採択されることがあります。

<その他>

①Q. 研修や会議への参加計画はどのように進めていけば良い？

A. 『①研修・会議への参加目的/理由を整理し、②開催地、主催先、開催方法を選択、③期間の検討と決定 ④③までの想定に合う「型」を選ぶ』が流れの例です。

②Q. ITスキル向上など、実務能力向上のための研修に参加することは可能か？

A. 可能です。その一方、本プログラムの目的は、国際協力 NGO の人材育成をとおした組織強化、並びに日本の NGO への成果還元です。採択された場合には、国際協力における個人の能力強化のみならず、所属組織や他 NGO への研修成果の普及や共有に努めて下さい。

③Q. オンライン研修の場合、インターネット接続場所の制限はあるか？

A. 「研修に集中して参加し、成果が得られる接続場所であるべきこと」は大前提となります。その大前提に基づきインターネットセキュリティが確保される接続場所であれば、制限はありません。

以上

<NGOスタディ・プログラムのメリット>



- ・団体の規模に関係なく、広く公平に人材育成・研修の機会が得られる。
- ・課題などを解決・改善する手段を学べる。
- ・国内の短期ワークショップに柔軟に対応できる助成プログラムが他にはない。
- ・研修に参加したいと考えた課題を明確化できる。
- ・人脈作りに非常に貢献した。
- ・講師や他の参加者と話す機会にもなるため、お互いの経験や意見からより多くを学べる。

<本プログラムをとおして得たこと>

- ・業務への理解が深まった。新事業準備にあたって新しい知見を活かした。
- ・応募書類や研修計画作成をとおし、研修先に対する理解や業務、組織、NGOに対する理解や考えが深まった。
- ・ネットワークが広がり、特定課題の導入に協力し合えるようになった。
- ・団体内の活動に加え、NGO全体と言う観点で活動を考えるようになった。
- ・リソースや現地での地域に根差した開発教育の展開などの貴重な情報を入手することができ、セミナーや教材作成につながった。



<プログラムをまた使いたい？その理由>



- ・職員のスキルアップに確実につながるので使いたい。
- ・団体内の知見・技術が蓄積されていくと言う大きな効果が見込める。
- ・国際協力の手法や団体の戦略、課題は業務内容やポジションにより変わるため、スキルアップやキャパビルを目指してこのプログラムを使いたい。
- ・新たなリソースや、事業展開、人材育成の面でとても有益だったので、また活用したい。